

**巻頭言**

# 新しい建設生産システムへの スタートを願って

辻 靖 三



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様方には本年も（一社）日本建設機械施工協会の諸活動にご理解ご協力を賜りますよう、お願いいたします。

昨年は長雨による洪水等の災害がある一方、国立競技場の新設に関わる見直し、建築物の品質確保等建設の問題が議論になりました。背景には、国全体の人口減少以上の建設産業の就業者の減少と高齢化、建設投資の急激な減少等建設産業の近年の状況の変化が感じられるところです。他の産業部門の体制も世界展開の中で大きく変わってきている中で、建設産業も国内状況の変化に対応して人材・事業量の確保が最大の課題です。

振り返れば建設産業の構成は、公共事業が大きい約半世紀前の時代に骨格ができ成長してきましたが、当時では官側の体制がリード役で全国規模に急速に展開するための仕組みでした。施工に必要な発注者側の仕様、品質管理等様々な規定も作られ、地域、種類、大小様々な工事に適用されてきました。しかし数十年経た今日では、前記の状況変化をうけ、発注者側は技術者の人員減の上に維持管理、契約手続き等多様な業務が加わってきていて余裕がなく、建設現場技術では民間が進化しています。国は建設産業の持続的発展のために、品確法等の制定・改定や施策を実施してきましたが、本年は情報化技術、PC製品化の拡大等の新技術の本格的展開、工事の平準化を行って、建設現場での施工能力の改善・安全化を図り、建設生産性を向上させ、企業の経営環境改善、若手就業者の確保・育成に繋がることを目指す方針を出しました。

情報化施工技術については、当協会も近年積極的に会員の方々の参加・協力を頂いて取り組んできたものです。技術は実用段階でありましたが、建設工事の中で発注者との種々の手続き、規定類との整合性から効果が不十分だった課題がありましたが、新技術を前提

とした工事プロセスを新設し、発注者・受注者ともに生産性向上に取り組むのは画期的であると思います。力強い建設機械に情報制御の知恵を搭載し、その機能をフルにこなせる技量のマンパワーによって建設現場が効率的に新しい姿となるのを大いに期待するものです。

この技術の導入は、工事段階からその一つ前段の設計段階、後段の維持管理段階にも連鎖して効果を発揮できることに繋がるので、インハウスエンジニア側にも業務の生産性向上となると思います。筆者は、国土づくり・街づくりは時間の経過に合わせ、改善していくものであり、各地でそれを立案し実現していくのはインハウスエンジニアの役割だと思っています。ただ現在の状況は人員上既存の事業の進行に追われ、維持管理に追われ、先のことを考える余力がない状況と見えます。事業の実現までには、企画・調査・調整・環境評価・事業化・地元説明・合意形成・用地取得の手間にかかる上流側をクリアして、下流側の詳細設計・工事・維持管理と民間の活躍する分野になります。上流が機能しないと建設産業の出番となりません。そのために、上流の段階にインハウスエンジニアを極力配置し、携わる体制が必要になりますので、インハウス側は下流の業務を出来る限り民間側を活用する、建設生産システムに変えていく必要があると思っています。すこぶる困難なことではありますが、関係各位のご理解と一致協力に掛かっていくことだと思います。

この新技術が、数十年間続いて大きな改定が出来にくかった建設生産システムの見直しに繋がる契機となって、これからの時代の新たな建設生産システムで建設産業が若い人たちに魅力的なものになることが新年の夢であります。